

浜風 通信

第31号
発行：神奈川県藤沢土木事務所
なぎさ港湾線
住所：茅ヶ崎市汐見台1-7
電話：0467-58-1473
http://www.pref.kanagawa.jp/docs/ex5/kaigan/chigasaki.html

第16回協議会 令和2年3月（書面開催）
第17回協議会 令和3年3月（書面開催）
第18回協議会 令和4年3月（書面開催）

〔主な議題〕
Ⅰ 茅ヶ崎中海岸の養浜事業の評価
Ⅱ 養浜環境影響調査の報告
Ⅲ 今後の海岸保全事業の進め方

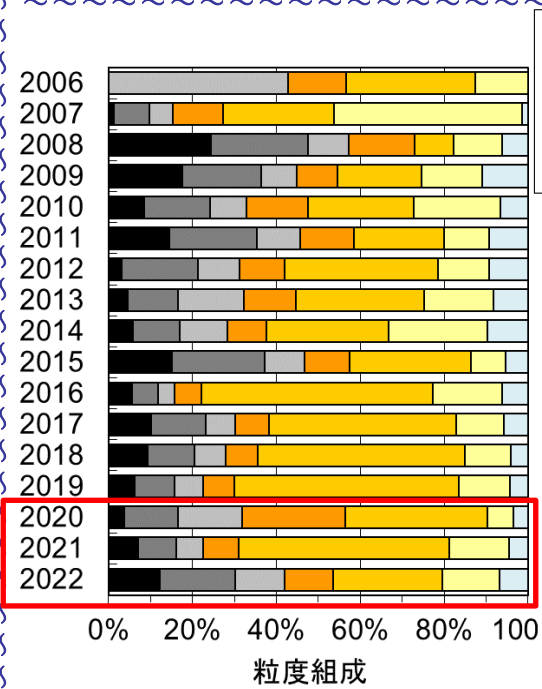


図-2 養浜材の粒度組成

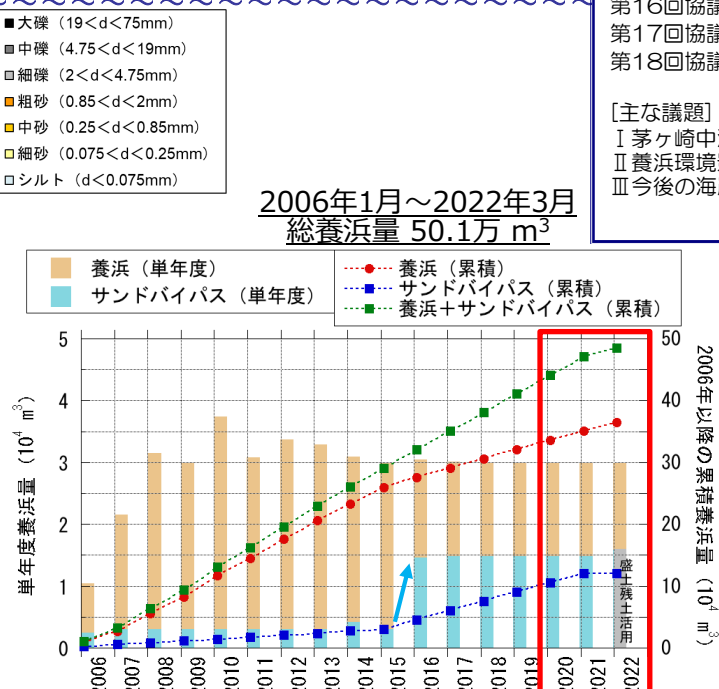
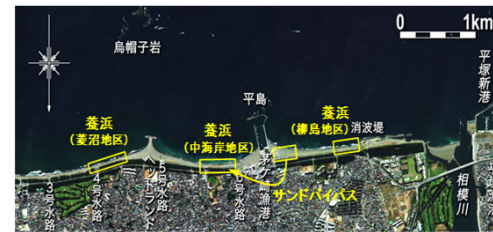


図-1 中海岸の養浜実績



養浜範囲

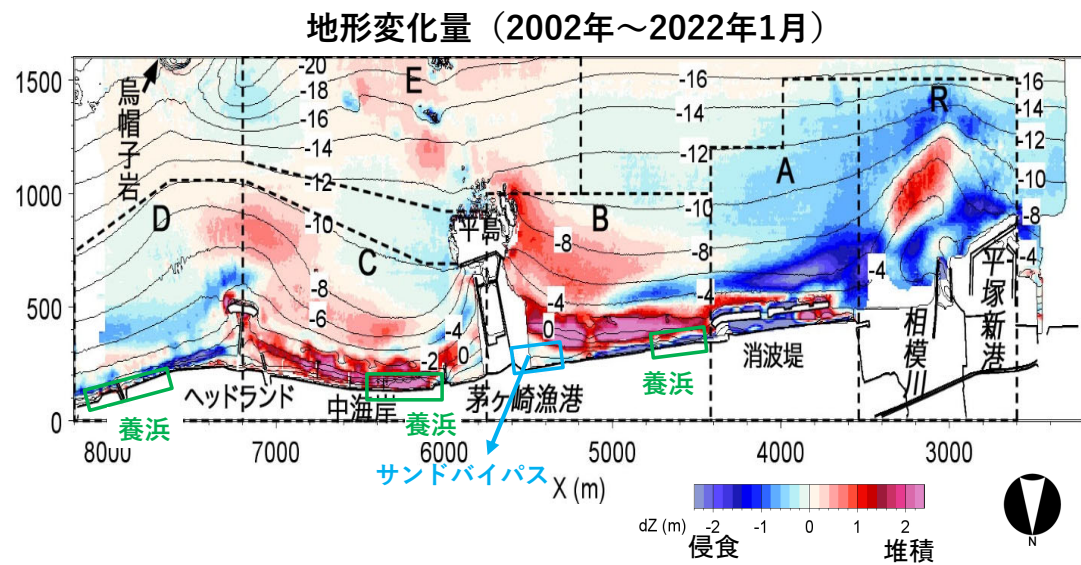


図-4 養浜後の地形変化 (2002年~2022年1月)

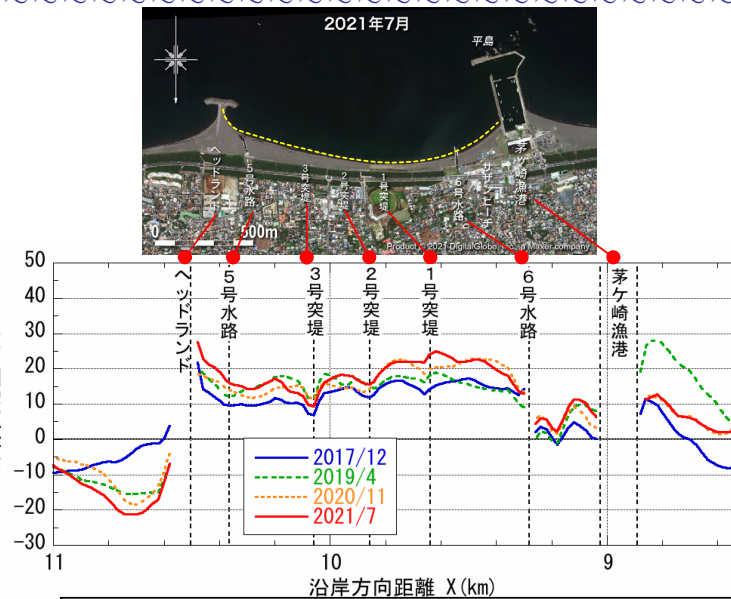


図-3 茅ヶ崎中海岸の汀線変化量 (2005年基準)

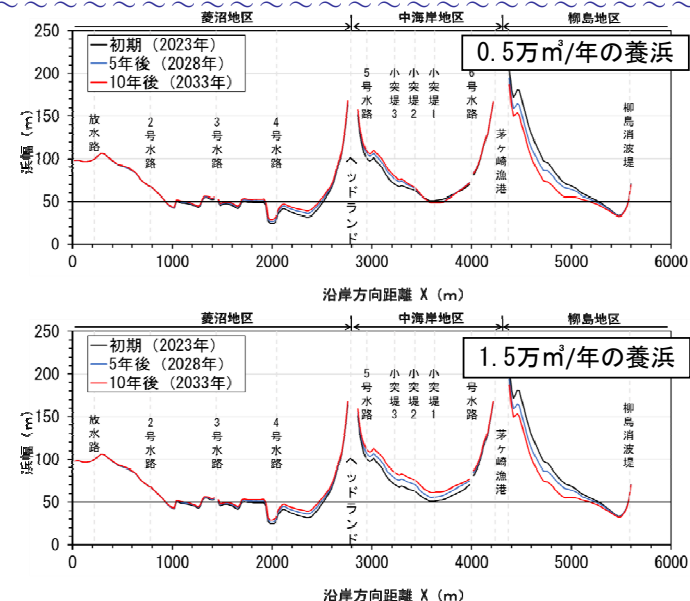


図-7 維持管理の予測結果 (2033年まで)

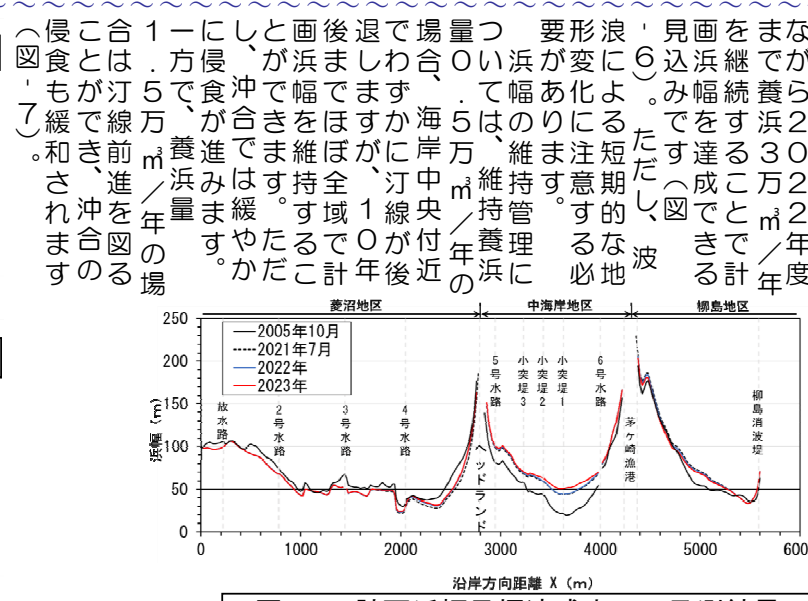


図-6 計画浜幅目標達成までの予測結果

② 計画浜幅達成までの養浜と維持管理

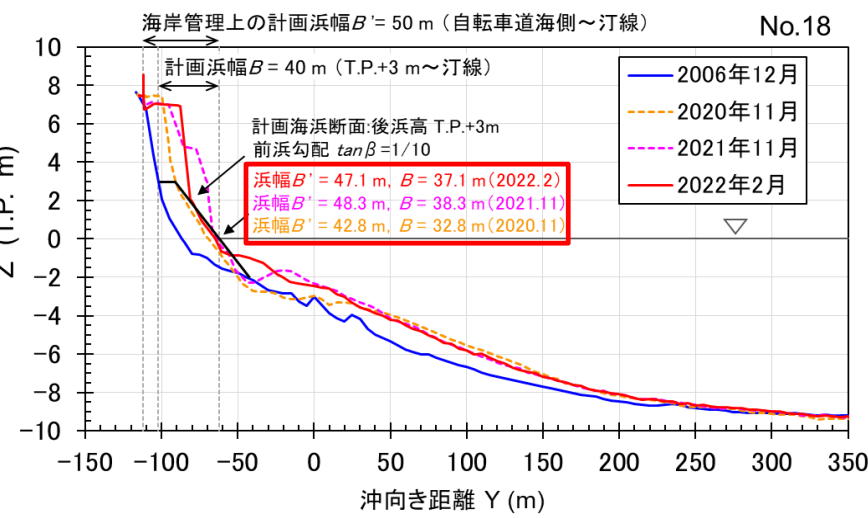


図-5 浜幅検証断面 (No. 18) の縦断形変化と計画浜幅

①・③ 計画浜幅の達成状況と防護機能評価

養浜の計画幅は、2006年12月の調査時より、2020年11月の調査時までに、約1.5m増加している。これは、計画幅の達成に大きく貢献している。また、防護機能の評価においても、養浜による浸食の抑制が確認されている。

① 茅ヶ崎中海岸の養浜事業の評価

茅ヶ崎中海岸の養浜事業は、令和2年から令和4年にかけて実施された。この事業は、海岸の侵食を抑制し、観光資源の保全を図ることを目的として実施された。事業の実績として、養浜材の投入量が50.1万m³に達し、海岸線の侵食が抑制されたことが確認されている。

第16~18回 茅ヶ崎中海岸侵食対策協議会



図-10 環形動物門 ヨツバネオ A型

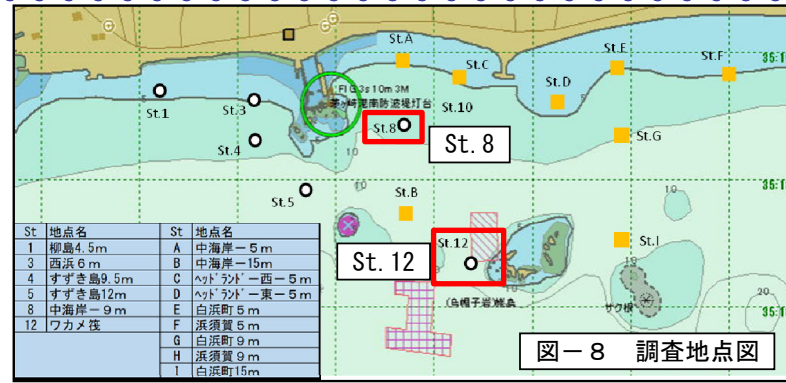


図-8 調査地点図

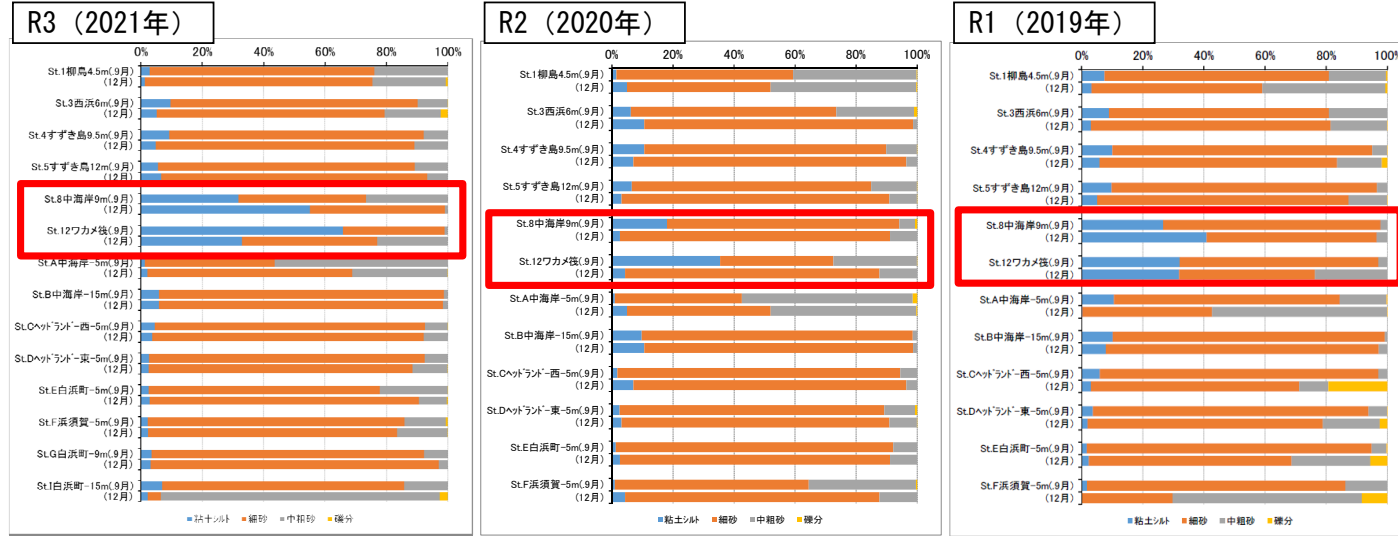


図-9 粒度組成

底生生物の分析結果は年による変動はあるものの、例年概ね種類数150程度、個体数2000〜3000個程度が確認されました。また、令和元年度は出現がなかった有機汚濁指標種のヨツバネオA型(図・10)が令和2年度調査の際には例年の10倍ほどの1773個体が確認され、令和3年度調査の際にも163個体が確認されました。

これらの結果から求めた合成指標によると令和元年〜3年のすべての地点において正常な底質環境であることが判断されました。以上のことから、現段階では茅ヶ崎海岸の底質環境において、懸念材料は特に見られないと考えられます。しかし、St. 8(中海岸9m)の粘土シルトの増加などに注意を払いつつ次年度以降の調査を必要とあります。

養浜による底質・生態系などの変化を把握するため水質、底質(粒度組成、COD、強熱減量、全硫化物)、底生生物調査などを毎年に行っています(図・8)。調査は令和元年、2年、3年ともに水質、底質、底生生物調査を9月と12月に実施し、令和元年、3年には、海底景観観察を1〜2月に行いました。

水質調査の結果、浮遊物質(SS)は令和元年度にほかの年と比べてやや高い1〜7mg/Lで推移しています。その後は概ね検出限界未満の4mg/Lで推移しています。

粒度分析の結果、St. 8(中海岸9m)及びSt. 12(ワカメいかだ)では、過年度と同様に、粘土シルトの割合が他の観測点に比べて高い結果となりました(図・9)。

底質分析の結果、底質の化学的酸素要求量(COD)、全硫化物(TS)及び強熱減量(1L)は、過年度と同様に、粘土シルトの割合が高いSt. 8(中海岸9m)、St. 12(ワカメいかだ)の値が他観測点よりも高くなっていったのですが、CODとTSはいずれも水産用水基準を下回っており、正常な底質環境であると判断されませんでした。

第16〜18回 茅ヶ崎中海岸侵食対策協議会

(3) 養浜環境影響調査

◆ 主な意見及びアンケート結果

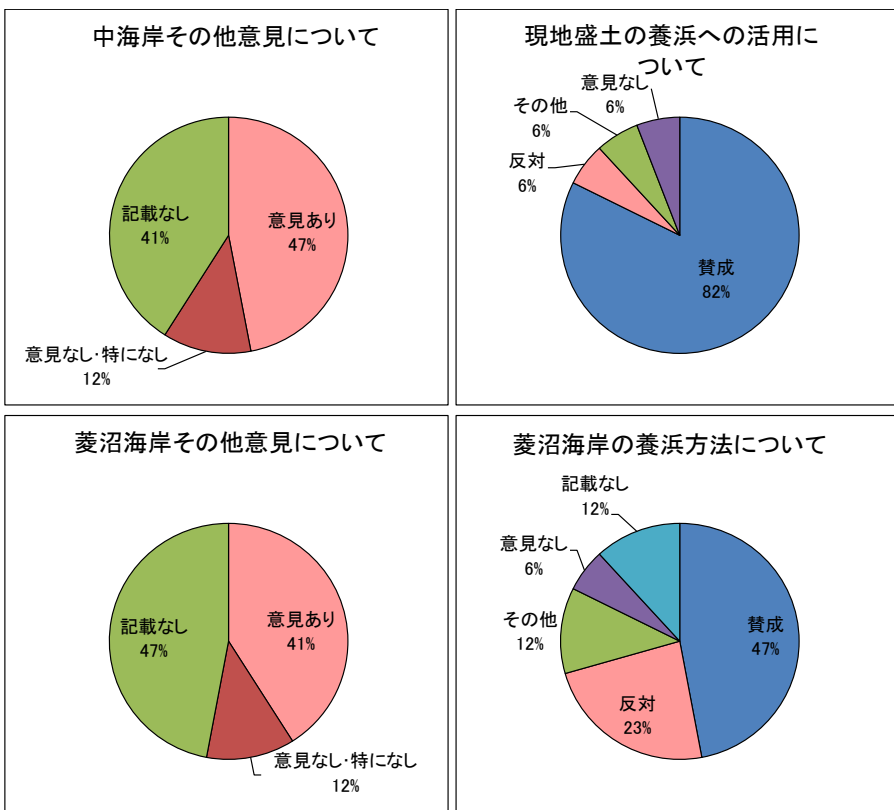
第16〜18回協議会(書面開催)の主な意見は次のとおりです。

- ① 中海岸地区において維持養浜を継続してほしい。
- ② 平成23年3月に策定した「相模湾沿岸海岸侵食対策計画」において最も侵食傾向にあった中海岸地区の目標達成が近いことから、近年緊急度が高い養浜海岸での養浜事業拡大を含めた計画の見直しや、状況に応じた海岸侵食対策を実施してほしい。
- ③ 中海岸の侵食に関しては従来通り港の西側の砂をできるだけ多く運んでほしい。
- ④ 小和田の浜も侵食が激しく台風などの後、できるだけ早く浜を元の状態に直してほしい。
- ⑤ 投入する砂の質を確保しつつ、今後も地引網を継続して実施できる養浜対応をしてほしい。
- ⑥ 高波浪に対する被害が発生し、地引網をする際に、漁船を沖へ出すことが困難となり、地引網の継続が厳しい。
- ⑦ 養浜材を入れる袋が海へ流出することにより、漁船のスクリーンへ巻きつく被害が発生しているため、2次被害の発生しない養浜材や流出しない方法で対応してほしい。

- ① 養浜に使っている砂が細かすぎる。茅ヶ崎漁港内のいけすに砂が入る。ダムから持ってくる砂も2mm〜1.5cm位の大きさの小砂利の方が飛砂しないし、流砂する量も少ないと思う。
- ② 小和田(養浜海岸の東側)の漁師から「浜幅が少なくなって漁業に支障が出ている」と報告を受けている。
- ③ 台風の際一挙に地形が変化する自然の猛威の前に、人の力の弱さを感じる。どこをもっと事業の成果というか悩ましい。
- ④ 現状を考えると、養浜海岸、柳島海岸の侵食が進み、毎年のような台風の影響でサイクリングロードが通行止めになるのでは。もうすこし厚めな復旧を行っていただきたい。

- ① 小和田地区の二軒の網元の意見・要望を聞いていただければ侵食でこまっっている事がよくわかると思いますので、よろしく願います。
- ② 波を防ぐ為、沖にテトラ等を置くのも方法です。波の力を弱める事も大事です。
- ③ 前回のアンケートでトンポロ効果の為に岩石の投入をしてはどうかと回答しましたが、2万m³から3万m³の土砂投入の養浜対策を見守りたいとして、前回の意見の撤回を致します。
- ④ 今後も養浜を続けてほしいと思います。
- ⑤ 養浜海岸より東側4号水路よりもう少し東側の小和田のところまで砂を入れて頂きたいです。これは小和田の地引網さんからの要望もありました。
- ⑥ 台風等が来ると砂浜がなくなるので、波に対して何か根本的な対策が必要じゃないかと思う。
- ⑦ ヘッドランド付近の養浜がだいぶ高く、ライフセーバーの詰所より波打ち際が見えず、リスク管理が難しいと思われる部分がありますので、夏前に改善をお願いしたいです。また、中海岸から白浜町間のサイクリングロードへの飛砂が激しいので、改善策を検討頂きたい。サイクリングロード付近の砂をもう少し波打ち際の移動するだけでもだいぶ変わるようにも考えられるし、竹す柵の配置を工夫頂けると助かります。

第18回アンケート結果



※規約の変更についてのアンケート結果は賛成94%、反対6%でした(図略)。